

2025年12月13日  
大学教務実践研究会  
教務課題検討フォーラム

# 学生対応のデザイン ～「知の総和」答申を受けて～

北陸大学 高等教育推進センター  
東岡達也

# 自己紹介

- 2018-2020, 2022-2025 名古屋大学高等教育研究センター 研究員
- 2020-2022 東海国立大学機構大学文書資料室 事務員
- 名古屋大学では、FD・SDの拠点事業の研究員として、大学教職員の学びや大学の多機能化に関する研究および実践を行う。
- 現在は、上記内容に加え、小中等教育（特に教員）への生成AI導入・利活用に関する研究・開発を行う。

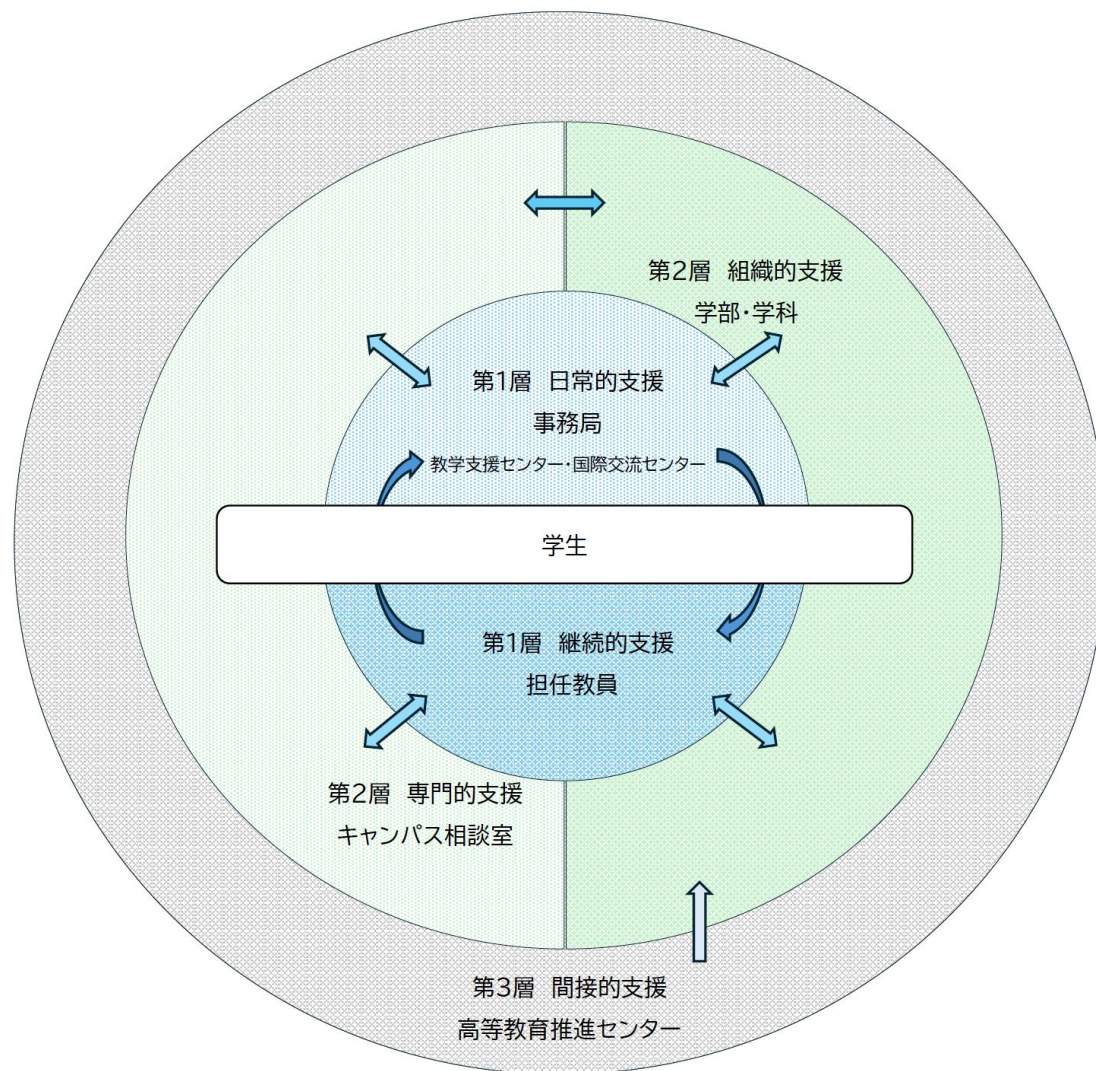
## 話題提供の内容

- ① 北陸大学 アカデミック・アドバイジング体制について（各委員会承認）
- ② 教務系職員 2 名（教学・教務系歴：約25年、22年）に対する聞き取り調査結果の報告

※ 本発表における調査結果の内容と解釈は、調査協力者ならびに所属大学の公式な見解を示すものではなく、発表者個人の視点に基づく。

→ 北陸大学の教務系職員が関わる日常的業務を、「アカデミック・アドバイジング」として捉え直す。

# 北陸大学 アカデミックアドバイジング体制

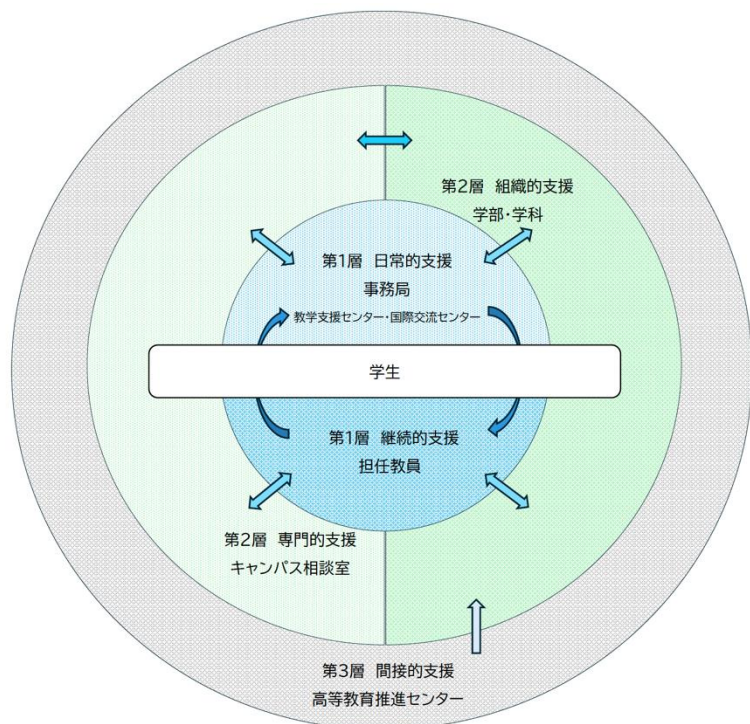


- 北陸大学では、学生の学びと成長を継続的に支える体制の充実を図るため、3層構造によるアカデミック・アドバイジング体制を構築する。
- 「学生支援の3階層モデル」と共通する点と異なる点がある。

# 北陸大学 アカデミックアドバイジング体制

## 【第一層】

〔日常的支援〕事務局／教学支援センター・国際交流センターが担当し、学生一人ひとりの学修・キャリア・生活面に関する相談・支援を実施。



〔継続的支援〕担任教員が担当し、「身近な相談窓口」として日常的な学修・生活のフォローを行い、必要に応じて専門部署に接続。

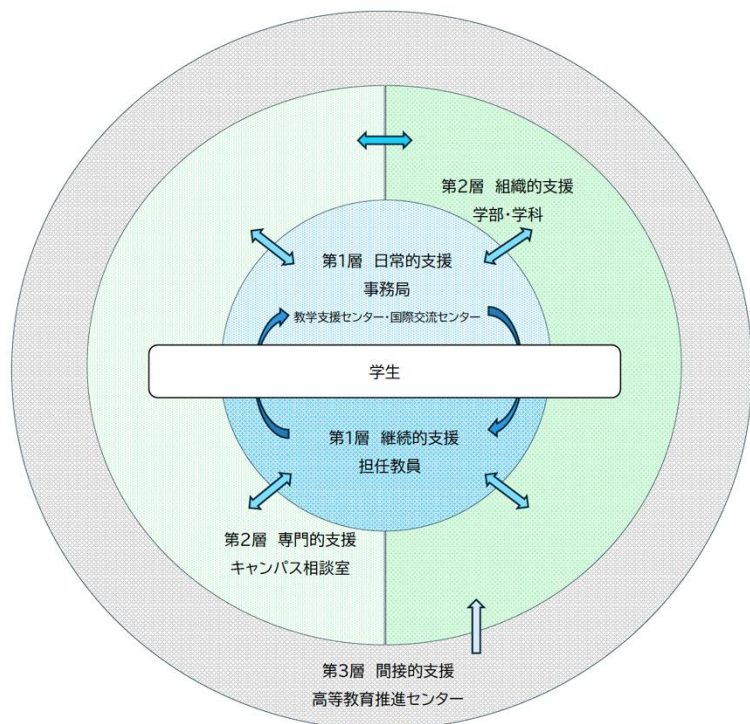


# 北陸大学 アカデミックアドバイジング体制

## 【第二層】

〔組織的支援〕 学部・学科が担当し、学生・保護者、担任教員に対して総合的な支援と調整を行う。

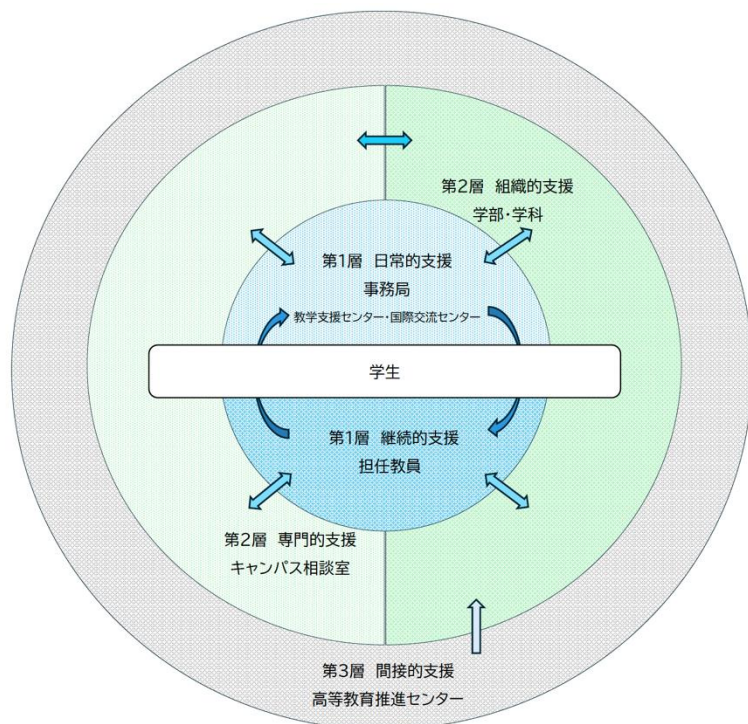
〔専門的支援〕 キャンパス相談室が担当し、専門相談員が、学生が自分の力で問題を乗り越えるための「伴走者」として支援を実施。



# 北陸大学 アカデミックアドバイジング体制

## 【第三層】

〔間接的支援〕 高等教育推進センターが担当し、担任教員が適切なアドバイジングを行えるよう、必要な知識やスキルを提供。



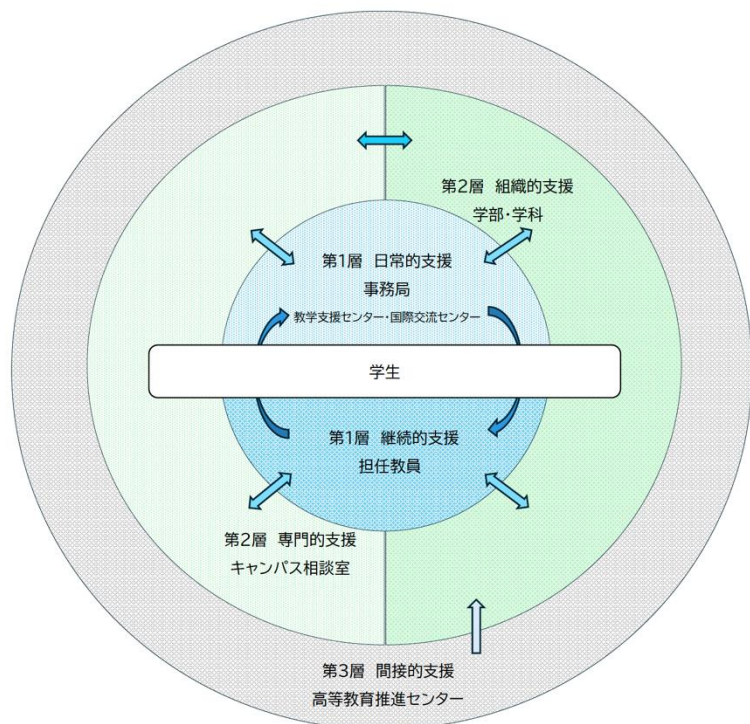
# 北陸大学 アカデミックアドバイジング体制

## 【第一層】

〔**日常的支援**〕 **事務局**／**教学支援センター・国際交流センター**が担当し、**学生一人ひとりの学修・キャリア・生活面に関する相談・支援**を実施。

→ 教務系職員は第一層の「**日常的支援**」を主に担当。

→ しかし、第一層だけをやっているわけではない。





## 「日常的支援」の具体例①：学生からの相談

- 学生本人からの主な相談内容としては、**履修相談、成績、卒業要件**に関する事項。
  - よくあるテーマ：履修忘れ、単位が取れなかった、どうやって履修していいかわからない（文系）。  
留年生の履修相談（国家試験のある学部、医療系学部）。
- CAP制や、他学生との公平性、合理的配慮を考慮しつつ、可能な限り個別に対応。

## 「日常的支援」の具体例②：教員からの相談

- 授業中に90分間座ってられない、集団にうまく馴染めない、**教務課の窓口に来ない**、かつ学習の不振が見られる、大学に来なくなるなどの場合、教員から相談がくる。
- 担任教員が一人で抱え込まないような体制（複数担任制の採用、「担任活動指針」を通じて教務課への相談を案内）の構築など。

## 層をつなぐアカデミック・アドバイジング体制 ：北陸大学の「強み」

- ① 教務窓口に来た学生に人間関係や経済状況などの問題が見えたときに、同フロアの学生課、進路支援課などにつなぎやすい**事務局の作り**。
- ② 全学教務委員会、学生情報交換会への出席を通じた、**教務系職員の学生支援への積極的参画**。
- ③ 入学前教育、プレースメントテスト、自校教育、基礎ゼミなど、初年次教育を通じた**学部を超えた学修支援基盤の構築**。

→ 学生を理解するための効果的な教職協働となっている。北陸大学では教務課長の役割が大きい。

## 教務系職員に求められる知識・スキル

- ① 法律、政策、大学の規程、履修に関連する知識
- ② 学生、保護者、教員、他部署の職員と対話するコミュニケーションスキルや調整能力
- ③ 大学、学部・学科の歴史、全学的、学部別の教員文化、学生や保護者の雰囲気などの大学文化や組織風土の理解

→ 皆さんが日々実践されていること。それを各大学に合わせていかに実現するか。